

わたしの聖戦

◎◎女性が働くことについて◎◎ 34

医学博士・医学ジャーナリスト 植田美津江

車内人間観察考

電車の中で何をしてもうやって過ごすかは、結構私にとって大事なテーマである。

新幹線のような、比較的長距離の場合には新聞や本を読むことが多い。

最近では、MDで朗読を聞くこともある。朗読は、文字を目で追うのとはまた違った味わいがある。気分転換にはもってこいである。しかし短距離の電車内では、人間観察をするのが俄（が）然お気に入り。つまり、同じ車両に乗り合わせた人々をさり気なく観察するのである。車内広告をじっくり読む人、携帯のメールを打ち続ける人、何やら

難しそうな試験問題に取り組んでいる人など実に面白い。今回は、そんな中で印象に残った少々変わった人々の様子をこの場を借りて紹介してみたい。

「マスカラに凝る」—— 今日び、車内で化粧をする女性は珍しくもなんともないが、ある日見かけた若い女性には驚いた。マスカラとは、まつ毛を長く見せるアイテムだが、その女性、乗車時間およそ1時間強の間、ずっとひたすら一心不乱にマスカラを塗り続けていたのである。マスカラというものは塗れば塗るほどまつ毛が濃くなり、瞳を大

きくみせる効果があるが、それほど長い時間塗る必要があるのかどうか……。しかも、隣席の男性がウトウトと居眠りをしはじめ、その女性の肩に頭がすつきり乗っかってしまっているにもかかわらず、まるで意に介さずただただマスカラに夢中なので



からこちらに移ってきた男性を見てびっくり。手に歯ブラシを持ってごしごし歯を磨いているのである。知人と私は思わず目を見張り、互いに顔を見合わせ言葉も出ない。しかし、その男性はまるで車内で歯磨きをするのが当然であるかのように、歯磨きを続けながら(ひょう)々と歩いていく。笑いをこらえつつその男性の後ろ姿を眺めるしかなかったのであるが、他の人も同様に驚いていたにもかかわらず、感心するほどのマイペースぶり、いやはやあつ

ある。あれほど熱心に周囲を完全無視してマスカラを塗る人を、後にも先にも私は知らない。「歯磨きをする」—— ある晩地下鉄に乗った。思いのほか車内は空いており、私は知人とふたりで座りおしゃべりに興じていたのだが、隣の車両

ばれでした。「独り言を言う」—— 見た目はごく普通なのに、とりとめのないことを誰に言うともなく、時々、やにやしながら独り言を言う人が最近やたら目につく。しかしある日の女性にはちょっと違った。年は50歳後半だろうか。最

初は座ったまま手振りを交えながら、理解不可能なことをしゃべり続けていた。周りの人々は見えないふり聞こえないふり、である。するとその女性、いきなり歌を歌いはじめたのだ。曲は「恋のバカンス」。かつて大ヒットした曲だが、これがまた上手なのである。堂々とした声量で車内いっぱい響くその美声には思わず聞きほれてしまった。しかもちょうど一番を歌い終えたところで、さらに声を張り上げ「これはザ・ピーナッツの歌だ！」と紹介までしてくれたのである。本当にお見事でした。多分居合わせた乗客は、その日一日「恋のバカンス」のサビが耳に焼きついて困ったはず……。車内を社会の縮図とみなしながら窮屈さに耐えるのもまた一興、愛すべき変人たちはもしかしたら明日の私たちかもしれないのだから。

イラスト・三浦義雄